

東備消防組合消防本部総合計画

1 序 文

少子高齢化、人口減少、社会情勢の変化など備前市、和気町を取り囲む状況は問題が山積し、消防組織はそれに合わせた対策をとる必要があります。また、巨大南海地震による被災予想は声高に言われ、天候異変によると思われる激甚化した災害は安全で安心な生活と隣り合わせにあるのが現在の皆さんの住んでいる地域の状況です。

災害に対応していく強い消防組織として東備消防組合が存続していくために何をおこなったらよいか将来10年間を検討し計画を立てた結果、「災害に負けない消防体制で住民生活の安全、安心を約束します」を基本理念として計画を立案しました。

なお、この計画は、備前市及び和気町の「総合計画」等と整合しています。

2 基本構想

組織・人・施策の3本の柱で誰もが住みたいと思う地域をつくります。

3 基本計画

- 1 災害から住民を守る地域づくりをサポートします。
 - 2 火災は出さない、火災で死者を出さない予防行政を推し進めます。
 - 3 火災、救急、救助能力の充実強化をおこない、住民サービスの向上に努めます。
 - 4 組織育成、職員教育を強化します。
-

4 課 題

- 1 火災、死者を出さない予防行政
 - 2 増加する救急出動件数への対応体制
 - 3 住民サービスの地域格差の解消
 - 4 広域化、激甚化する災害への対応
 - 5 消防団、近隣消防本部等との関係強化
 - 6 職員の能力向上
 - 7 財政の縮小化と予算執行のありかた。
-

5 策定に当たっての方針

- 1 住民の生活の安全、安心に結びつくこと。
- 2 住民の負託に応える内容であること。

- 3 変化する社会情勢に対応すること。
 - 4 住民及び、関係機関とが一体となって推進すること。
 - 5 財政事情に対応できる計画であること。
-

6 目 標

- 1 地域の災害対応をサポートします。
 - 2 火災予防を広くアピールし、その一端をなす査察、適マークの交付の普及や住宅火災警報器の設置普及に努めます。
 - 3 高齢化社会で増加する救急需要に対応します。
 - 4 広域化、激甚化する災害に対応します。
 - 5 災害対応能力、山林火災対策を強化します。
 - 6 消防職員の教育を充実させ能力を向上させます。
 - 7 適正な予算執行と起債体質からの離脱で健全な財政とします。
-

7 目標達成のための取組み

(1) 地域の災害対応をサポートします。

◇「自分たちの街は自分たちで守る」精神を大切にして消防防災が地域のコミュニティ作りに取り組み、また、地域防災訓練の毎年 100%実施、自主防災組織結成率 100%を目指し、状況により自主防災組織の再編を促します。地域の防災訓練では指導・訓練カリキュラムに沿った指導等をおこない、自主防災組織のリーダー研修を実施し指導能力のレベルアップを図り、より専門的、広範囲な防災体制確立をおこないます。

また、人口減少に対応するため、地域の力となる人の育成を低年齢の、小学生、中学生へ防災教育を実施し防災意識の啓発に努めます。併せて、幼年、少年消防、婦人防火クラブの防災活動を活性化させ、防災意識の普及啓発につなげます。

(2) 火災予防を広くアピールし、その一端をなす査察、適マーク交付の普及や住宅火災警報器の設置普及に努めます。

◇他都市からの観光客が安心、安全に宿泊できるよう宿泊施設の適マーク 100%を目指します。火災で死者を出さないために住宅火災警報器設置モデル地区をつくり広くアピールするとともに、共同購入などの対策も含めて設置率を 100%にします。また、併せて火災予防対策の広報に予防対策手引きを活用し、事業所の予防査察を査察計画に基づき 100%実施し、事業者の理解を得ながら予防体制を確立します。

(3) 高齢化社会で増加する救急需要に対応します。

◇東備消防組合では増加する救急需要に注視していますが、救急サービスの向上のため、対応策として救急隊を1隊増隊し、地域医療機関との連携を深め、転院搬送のあり方を見直すとともに、救急隊不在の空白時間の解消と、状況に応じて消防隊を投入します。また、遠隔地、島しょ部における救急体制を充実させるため、救急協力員との密な連携体制や、救急事故発生時の地域住民の活動サポートを強化します。更に、救命士資格者の計画的な養成をおこない救急車に救命士を2名乗車させ、高齢者の人も安心して暮らしていけるよう小、中学生、住民等、誰もが応急手当のできる地域を作り、いざという時のためのバイスタンダーの育成に努めます。

(4) 広域化、激甚化する災害に対応します。

◇平成30年度には緊急消防援助隊登録に救助隊を増隊登録し、特別救助隊として救助工作車、資機材の充実、整備をおこない災害の広域化、激甚化に対応します。また、東備地域での災害時に緊急消防援助隊受入れを円滑におこなえるよう緊急消防援助隊受援体制を構築するとともに、消防団、近隣消防本部、市町等関係機関との連携強化を図り広域化、激甚化する災害に対応します。

(5) 災害対応能力、山林火災対策を強化します。

◇火災での死者0を目標に、活動マニュアルの運用、基本訓練で各隊の活動能力を向上させます。文化財、事業所、各地区での訓練を強化し、実戦に即した訓練を行い、住民の災害対応力向上を図り、住民の消防への関心と理解を深め、防火意識の普及啓発をおこないます。また、防災ヘリの水利部署位置の調査や指定消防水利の登録をして大規模火災に対応するとともに、航空消火、消防団との連携、消防水利指定の拡大を山林火災対策の軸として対応していきます。

(6) 消防職員の教育を充実させ能力を向上させます。

◇消防学校、消防大学校、市町村振興センターでの既存の教育に加え、人事交流、先進地消防本部への派遣研修などをおこなうと共に、毎日の訓練、教養を充実させます。また、自己研鑽の支援、職員の岡山大学就学制度を確立します。

(7) 適正な予算執行と起債体質からの離脱で健全な財政とします。

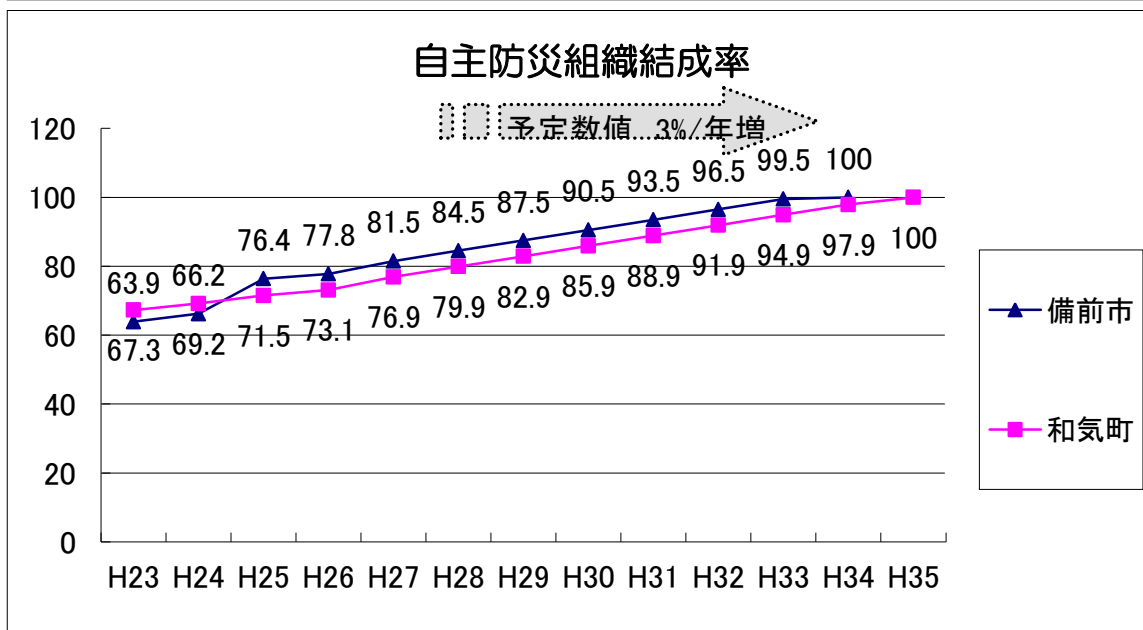
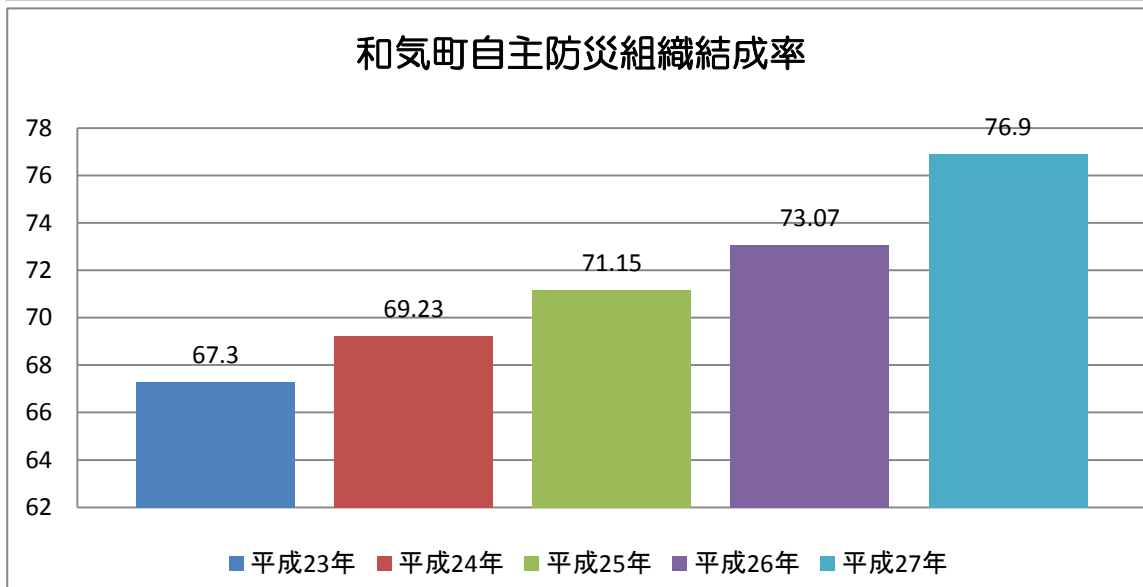
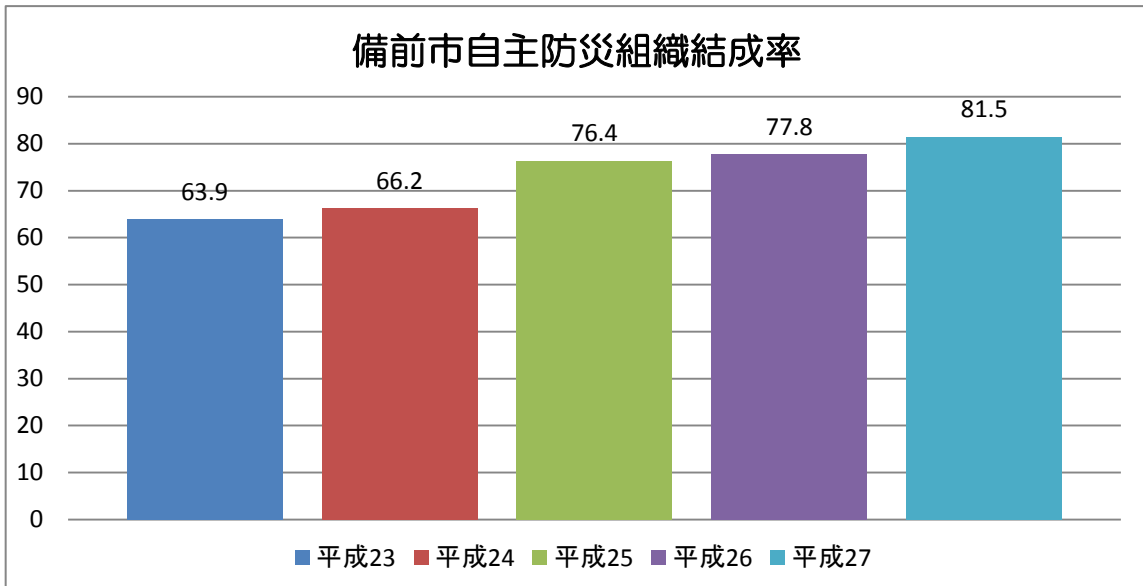
◇財政の縮小化には起債体質からの離脱、不要不急の購入を控えて支出の削減をおこない、消防車両等の購入は標準仕様を柱に適正な予算計画を立て、入札を原則とした予算執行で予算を圧縮し対応します。人件費に関係する職員採用は国の方針でもある女性採用を積極的な採用活動で押し進めてゆきます。

8 まとめ

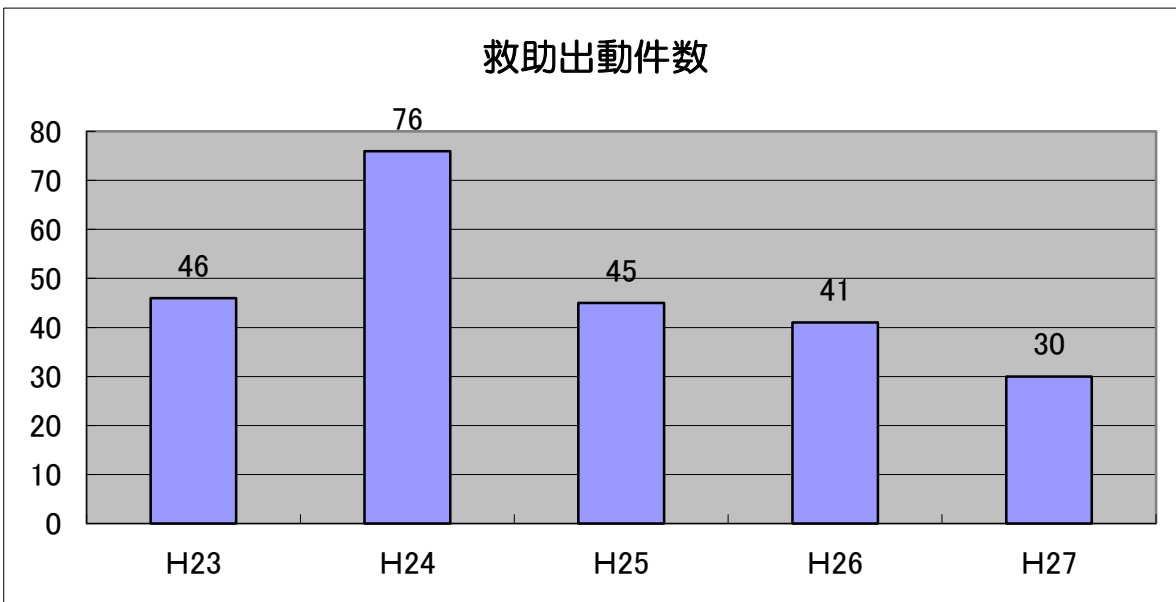
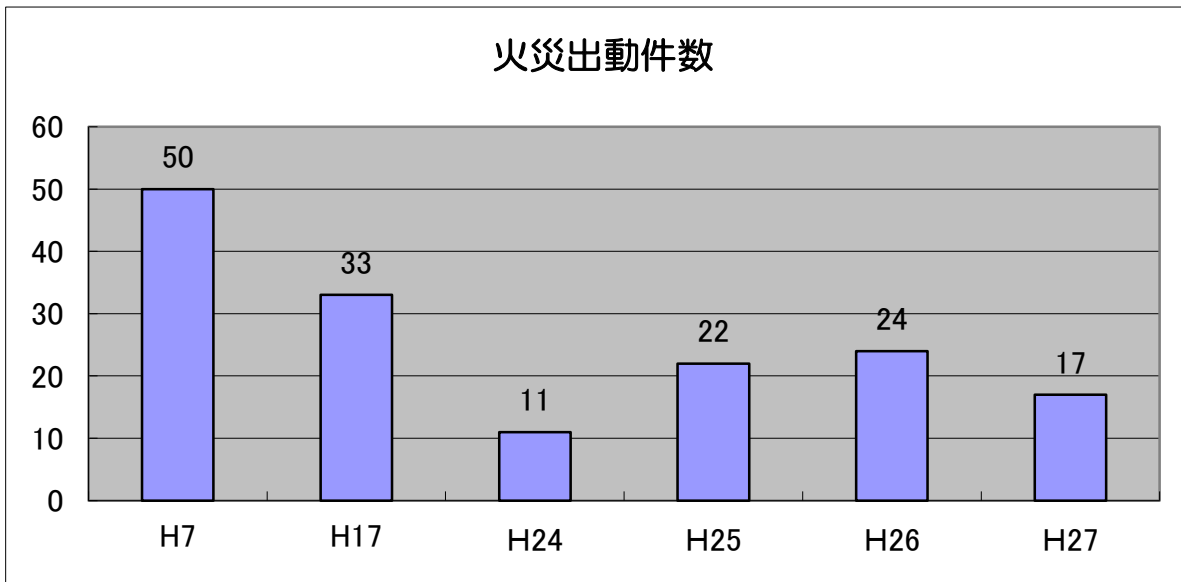
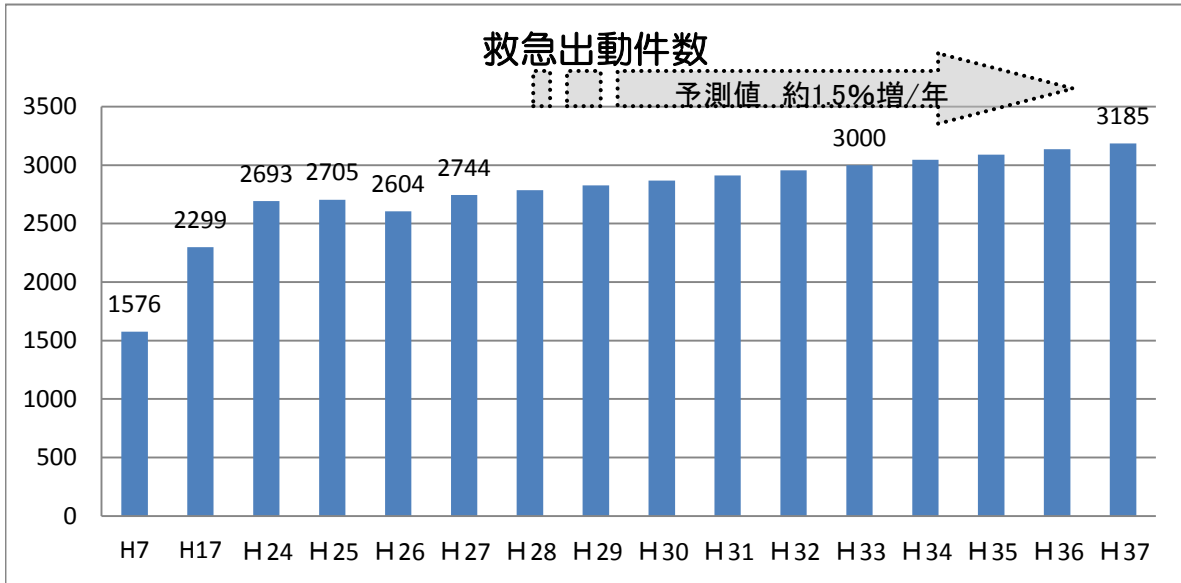
「困っている人を助ける」という気概は消防組織の本質でありいつの時代も消防という言葉の根底を脈々と流れています。時代は替わりその時代に対応した組織が求められますが、消防組織の求められる本質は、今も昔も変わっていないのではないのでしょうか。

備前市、和気町の住民が安心して住み続けられる地域、他の地域の住民が備前市、和気町に住みたくなる郷土のため、住民の皆さんの期待に応えるための総合計画です。

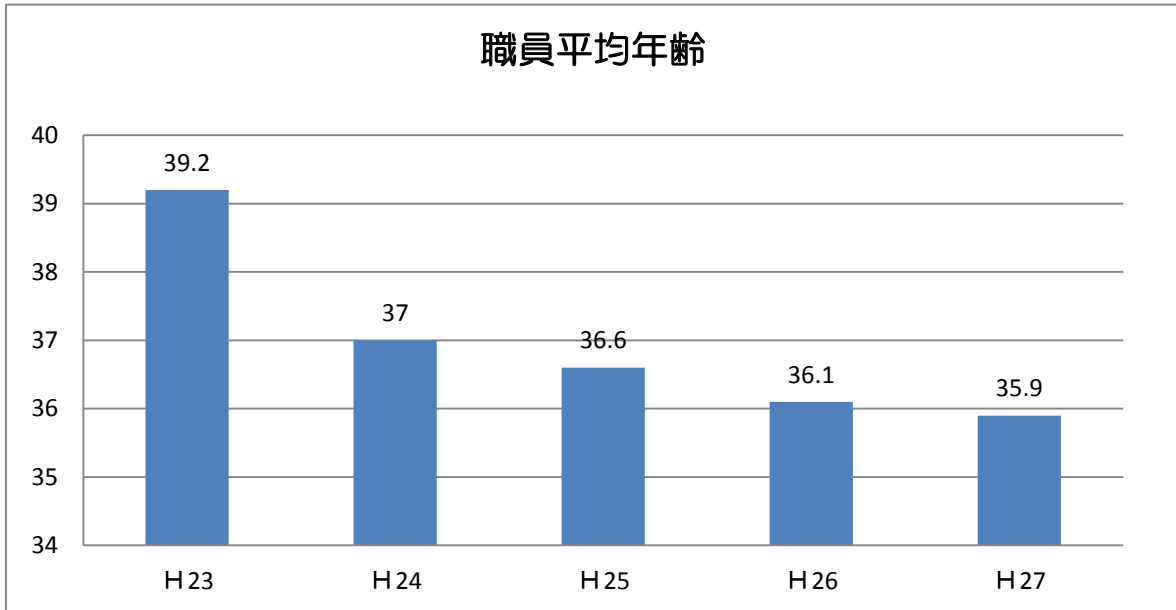
東備消防組合消防本部総合計画資料



東備消防組合消防本部総合計画資料



東備消防組合消防本部総合計画資料



東備消防組合消防本部総合計画資料

